

2024 年度 公益社団法人乙訓青年会議所 理事長所信

第 45 代理事長 嶋田 剛士

はじめに

「今こそ我々は、郷土愛を再認識し、自らの研鑽を通して、友情を深め、明るい豊かな社会の建設に貢献せねばなりません。」(乙訓青年会議所設立趣意書 抜粋)

1979 年、乙訓青年会議所は志高き 14 名の青年によって、全国で 659 番目の青年会議所として設立されました。以来、先輩諸兄姉の多大なるご尽力と、関係各位のご支援・ご協力のおかげをもちまして、本年度で設立 45 周年を迎えることができます。

我々が活動をする乙訓地域も 45 年の歴史の中で変化してまいりました。古くは西国を結ぶ交通の要衝であり、現在でも都市近郊である好条件から、高速道路・鉄道共に交通網が新たに整備され、住みよい地域として大型マンションや新興住宅も増えて、緩やかに発展してきました。しかしながら、交通の利便性は、地域市民の経済活動を他地域へ流出し、地域への興味を薄れさせます。さらに、流入した人口は、地域への愛着と帰属意識の乏しさから地域への関心が低くなります。地域への興味や関心の低下は、地域の活力を生み出す郷土愛を育めず、地域社会の衰退につながる危険性を孕んでいます。

今一度、我々が地域の課題に向き合い、地域への貢献に邁進しなければなりません。しかし、今の現役会員は設立趣意書にある、創始から続く精神の通りに活動ができているのでしょうか。この節目の年に、組織の設立された趣旨と存在する意義を再認識すると共に、組織が我々に与えてくれる恩恵と地域にもたらすことのできる影響力を改めて実感することで、感謝と敬意を深く心に刻み、活動への高い志を呼び起こすことが重要です。明るい豊かな社会の実現を目指す青年会議所として、次代へとこの組織を引き継ぎ、永続的に乙訓地域へ確かな運動を展開していく必要があります。

飽くなき探究心 ～確かな影響力で、組織と地域に発展をもたらす青年であれ～

奉仕・修練・友情の三信条を掲げる青年会議所において、奉仕による地域発展、修練による自己成長、友情による人脈形成、そのどれか1つでも欠けては意味がありません。青年会議所では「まちづくりを通したひとづくり」という言葉を度々耳にしますが、地域の課題や可能性に対して本質的なまちづくり運動を展開するためには、徹底した調査、綿密な計画と確実な実行、正確な検証が必要となります。そして、会員同士が協力的にまちづくり活動に取り組むためには、相互信頼が必要となります。さらに、先輩諸兄姉や地域の皆様と協働を図るためには、理念や信念への共感につなげる必要があります。地域の発展には何が必要なのか、人からの信頼や共感を得るには何が必要なのか、地域や人を真剣に想いながら本質的に必要なものを心から探究することで、必然的に正しい行動につながります。そして、その行動が確かな影響力となって、人を巻き込み、地域への貢献に至ります。まさしく、自らの研鑽が、友情を深め、地域の貢献につながるという仕組みが青年会議所には存在するのです。現在の国際青年会議所においても「青年会議所は、青年が社会により良い変化をもたらすためにリーダーシップの開発と成長の機会を提供する。」という使命が定義されています。青年会議所には成長の機会が数多くあり、その機会によって成長と友情を得た青年こそが、社会に変化をもたらすのです。今一度、青年会議所にしかない成長の機会を再認識し、飽くなき探究心から生まれる正しい行動で、地域や人々に確かな影響を与え、「社会により良い変化をもたらす」という我々青年の使命を果たしていきましょう。

次代が誇れる組織の継承

青年会議所の会員は40歳で卒業を迎えますが、人や世代が変わりながらも組織は存続し、運動は続きます。その中で、時代の流れに応じて変化していく規則や習慣もありますが、今も変わらずにあるものこそ、我々の文化として大切にすべきものだと考えています。失敗から学習し、成功から洗練され、人から教授され、自分で気づき、そのようにして44年間の

歴史の中で積み重ね、引き継がれてきた知識や経験が我々の文化を形成しています。さらには、先輩諸兄姉が活動を通して磨き上げてきたこの組織の輝かしい看板が存在しています。それら全てを礎に活動をさせていただけることで、今の我々も地域に確かな運動を展開することができています。そして、同様に我々もこの組織と文化を次なる青年に引き継ぐことで、明るい豊かな乙訓の実現を目指し続けることができるのです。

そのためにも、まずは、設立 45 周年を祝う場において、この組織と文化を永続的に次代へと継承する志を醸成します。そして、半年間で得た気付きや学びを、残す半年の教訓にすると共に、上半期の活動を慰労して英気を養うことで、下半期の運動への活力につなげます。さらに、本年度に卒業を迎える会員の修了を祝う場において、卒業生の青年会議所活動への想いを次年度へと引き継ぎます。また、1 年間の締め括りに労をねぎらう場において、45 年間の歴史を次代に残す機会を創出します。

本年度まで続いてきた歴史に感謝し、組織と地域の未来に想いを馳せましょう。知識や経験を活かしながら、1 日 1 日と文化を積み重ね、活動を行うことで 1 年が完遂できるのです。そして、先輩諸兄姉の意志をつなぎ、新たに刻まれた歴史を伝えることで、乙訓青年会議所を引き継ぎ、発展させ、永続的に乙訓地域の明るい未来を創造してまいりましょう。

主体性のある市民で溢れた地域の創造

地域を変えるのは運動であり、運動を起こすのは人であり、人を動かすのは意識です。しかし、数多くの情報から取捨選択できる現代においては、価値観が多様化したため、自身にとって必要性を感じるできないものへの関心が低下しました。さらには、自身の住まう国や地域への関心さえも低く、当事者意識が乏しい国民や市民も少なくありません。地域への関心の低下は、地域に対して主体的に行動できる地域市民を減少させ、地域コミュニティの衰退にもつながり、市民主体のまちづくり運動も生み出されません。市民主体のまちづくりは、市民生活に直接関わる課題を解決でき、地域特有の需要に対応できるものであり、

積極的に展開される必要があります。そのため、地域市民の当事者意識を呼び覚まし、地域の課題に向き合い、行動を起こせる主体的な人財を今後も生み出していかなければなりません。

そのためにも、まずは、1年間の運動の方向性に沿って我々自身が主体的に行動する決意を示します。そして、未来を担う子供たちが地域への興味や関心を抱ける機会と主体的に行動できる場面を創出します。さらに、次世代育成事業において取り組んできた手法や効果を確認することで、人の主体性を高める方法を再認識します。また、主体的に地域で活動をされている方々を紹介すると共に、有識者の講演を通じて、多くの地域市民が課題に向き合い、行動を起こす意識を醸成します。

我々が他の模範となるべく主体的に行動し、未来に希望の種を撒きましょう。そして、地域市民にも波及させ、影響が及ぶことで、当事者意識から生まれる主体性をもった人財で溢れる乙訓地域を創造してまいりましょう。

環境と経済が調和する活力ある地域への躍進

地域の発展とは、経済学、環境学などの個別科学だけで単純に考えられるものではありません。財政的に豊かな商業地域の大規模な発展は居住性を確保し難く、産業・工業化は自然環境を維持し難いものです。長岡京市・向日市・大山崎町の二市一町からなる乙訓地域は、豊かな歴史的背景と自然環境に恵まれ、特産品の筍や竹林を有した「竹の里・乙訓」として観光振興に取り組みながら、交通の利便性の良さからも近郊住宅地を形成しています。多くの地域住民は、大規模な商業開発よりも、この素晴らしい環境の維持を望んでおり、地方創生の観点からも現在の環境を維持しながら活気ある社会を目指すべきです。乙訓地域においては、京都府の施策にもあるように、地域特性を活かした観光産業をさらに活性化させる必要がありますが、乙訓地域の観光地域づくりは充分とはいえません。地域市民が、観光資源の創出や魅力の発信を積極的に行うためにも、まずは郷土愛を醸成することが重要とな

ってきます。環境維持と経済活性化の調和が生み出す、住んでよし・訪れてよしの活気ある乙訓地域の発展へとさらに推し進める必要があります。

そのためにも、まずは、我々が観光産業に必要な地域資源をしっかりと認識し、郷土愛を再認識できる機会を創出します。そして、観光産業の活性化につながる大規模な事業の構築に向けて、組織全体で多くの賛同者を生み出す機運を高めます。さらに、参加した地域市民が地域の魅力を再認識することで、醸成された郷土愛を観光産業の活性化につなげます。そして、政治選択の機会が訪れた際には、活気ある乙訓地域の未来を選択できるように、地域市民の政治参画意識を醸成します。

地域の魅力を理解して、組織が一丸となって行動を起こし、地域市民の地域愛を呼び起こしましょう。そして、地域の魅力を広く伝播することで、地方創生の礎を築き、地域の発展へとつなげてまいりましょう。

青年が成長できる魅力ある組織の実現

組織において、会員に理念を浸透させ、共感へとつなげることは最重要事項の 1 つですが、組織を構成する個人においては、人間関係が良好であることは勿論のこと、自己成長や活動成果の実感が活動意欲の向上へとつながります。近年の乙訓青年会議所においては、会員数の減少に伴う事業規模の縮小により、会員の成長できる機会が減少しているだけでなく、地域に与える影響力も低下しています。このままでは成長や成果を実感することができず、会員の活動意欲が低下する事態を招き、展開する事業の質が悪化し、地域への影響力はさらに低下してしまいます。その結果、組織や活動に魅力を感じない人間が増え、共に活動できる人財まで減少してしまい、さらなる事業規模の縮小という悪循環に陥ります。地域への運動を持続的に展開するためにも、会員数の拡大を事業規模の拡大につなげ、成果と成長を実感できる魅力ある組織を実現させなければなりません。

そのためにも、まずは、綿密な計画に沿った確かな行動で、共に活動し成長できる青年の

輪を拡げます。そして、本年度、京都ブロック協議会が展開する運動の方向性を理解することで、さらなる成長の機会が存在することを認識します。さらに、他地域の会員との交流を通じて、青年会議所には多くの同志がいることと組織の連携体制があることを再認識し、その魅力を実感します。また、地域の青年が乙訓青年会議所の魅力に触れる機会を創出し、さらなる仲間の拡大につなげます。そして、新入会員が組織の理念を理解し、歴史や仕組みを認識することで、活動に取り組むための礎を築きます。さらに、年間を通して、会員同士が親睦を深め、絆をより強固にする機会を創出します。

我々が組織に魅力を感じ、地域の青年にも魅力を感じてもらい、仲間の輪を拡げましょう。そして、活動の中で実感する成果や成長で会員の活動意欲を向上させ、理念への共感者を増やすことで、地域への確かな運動を展開できる組織へと発展させてまいりましょう。

効果的な運動を展開できる組織への発展

組織が展開する運動は独善的なものであっては意味がありません。地域に必要とされる適切な運動でなければ変化は生まれず、運動を展開する我々の品位が乏しければ影響力は半減してしまいます。我々が展開する運動をより効果的にするためには、確かな事業を構築できる精度の高い会議運営と、財務と規則だけでなく礼儀と規律も重視した健全な組織運営を行う必要があります。それら質の高い運営には会員の責任感と使命感の醸成も必要となります。しかし、我々には先輩諸兄姉より引き継がれてきた、会議と組織体系の運営方法が存在し、これらを活用することができるのです。青年会議所の使命と、公益法人としての社会的責任を果たすために、地域により良い変化をもたらすことができる確かな運営をこれからも行っていかなければなりません。

そのためにも、まずは、的確かつ健全な会議運営で、効果的な運動の展開を支援します。そして、役職者が各自の役割への責任感を醸成できる機会を創出します。さらに、地域に根差した運動を展開する我々が地域市民からの共感を得られるように、会員の礼儀と規律を

重んじる意識を向上させます。また、本年度に尽力した会員の功績を称え、次年度以降の活動意欲を高めます。

確かな事業を構築できる組織を維持しながら、各自が役割の責任をもって遂行し、地域からさらに必要とされる品位ある組織へと進化しましょう。そして、活動意欲を高め、効果的な運動の展開を支援してまいります。

広域連携を活用した社会貢献への基盤の確立

大型イベントの招致・開催をする意義は主管益、地域益、参加者益、主催者益、社会益の5つの益にあります。翌年の2025年度に、公益社団法人日本青年会議所 近畿地区協議会が実施する事業「近畿地区大会・乙訓大会」が開催されます。近畿地区内の青年会議所会員が一堂に会するこの事業は、乙訓地域の魅力を発信できるだけでなく、地域に青年会議所の運動を発信できる機会でもあり、主管となる我々会員が開催の意義を理解していなければなりません。本年度の奈良大会への協力を行いながら、乙訓青年会議所と近畿地区協議会、また地域との連携を図り、5益が確立できる意義ある大会に向けた入念な準備を行う必要があります。近畿地区大会・乙訓大会を組織全体で成功に導くために、本年度の奈良大会の功績を振り返ると共に大会開催の意義を理解することで、会員全員で主管青年会議所としての責任感を醸成してまいります。

むすびに

「あなたは何のために青年会議所の活動をしていますか？」という問い掛けが、活動の中で訪れることがあります。組織に所属する各々の目的が果たされなければ、活動に参画する意欲を失いかねません。しかし、「あなたが青年会議所の活動で得られたものは何ですか？」という問い掛けへの答えを考えてみてください。入会した動機や活動する理由以外のもの、それ以上のものが得られていることに気付けるはずです。それは、参加しなければわからない

いことであり、参画しなければ得られないものなのです。参画する中で、深く考え、強く想った先にある行動は、確かな影響力となって、人と組織と地域により良い変化をもたらすことができます。そして最後には、あなたが変化をもたらすことのできる人財となっていたことに、また気付くはずです。青年の成長がなければ、地域への確かな運動は展開できません。きっと、人にも、組織にも、地域にも、確かな影響を与えることのできる青年となれます。だから、飽くなき探究心を抱いてください。